小学部
中学年ブロック研究

主題：「児童生徒の発達の段階や特性を踏まえた
段階的・系統的な指導のモデルの構築を目指す」

副題：「児童生徒の日常生活と関連付けられた国語、
算数・数学×自立活動の個別授業の実践」

１　研究グループの概要

（１）在籍児童

・３年生：１１名（Ⅰコース１０名、Ⅱコース１名）

・４年生：１０名（Ⅰコース１０名）　　計２１名

（２）職員

・３年生担任：６名　４年生担任：５名　計１１名

②**「ICT活用能力実態シート」**を活用し、児童のICT活用能力についての実態把握を行った。

・全ての児童が　A　知識及び技能　　B　思考・判断・表現
C　学びに向かう力・人間性等　において**導入**の段階にあった。

③ **日常生活の様子**を観察し、課題点をまとめた。
（事例対象児童）

（２）授業計画・授業実践・実践報告

①　実態把握と学習指導要領を基に授業計画を立てる。

②　基本の教材・教具とiPadを併せて用いた授業を実践し、教師一人一事例をiPad実践報告書、研究の事例報告様式にまとめ、学部研究会で報告した。

③　事例対象（11例）
・ＡＢＣ：国語１段階
・ＤＥ：算数１段階　Ｆ：算数２段階　Ｇ：算数３段階
・ＨＩＪＫ：国語２段階

（３）研究討議・授業改善

①　各回１事例、グループ研究でブレーンストーミング法を用い、討議の柱に基づいて研究討議を行った。

②　グループ研究で出された意見や課題点を基に授業改善を行った。

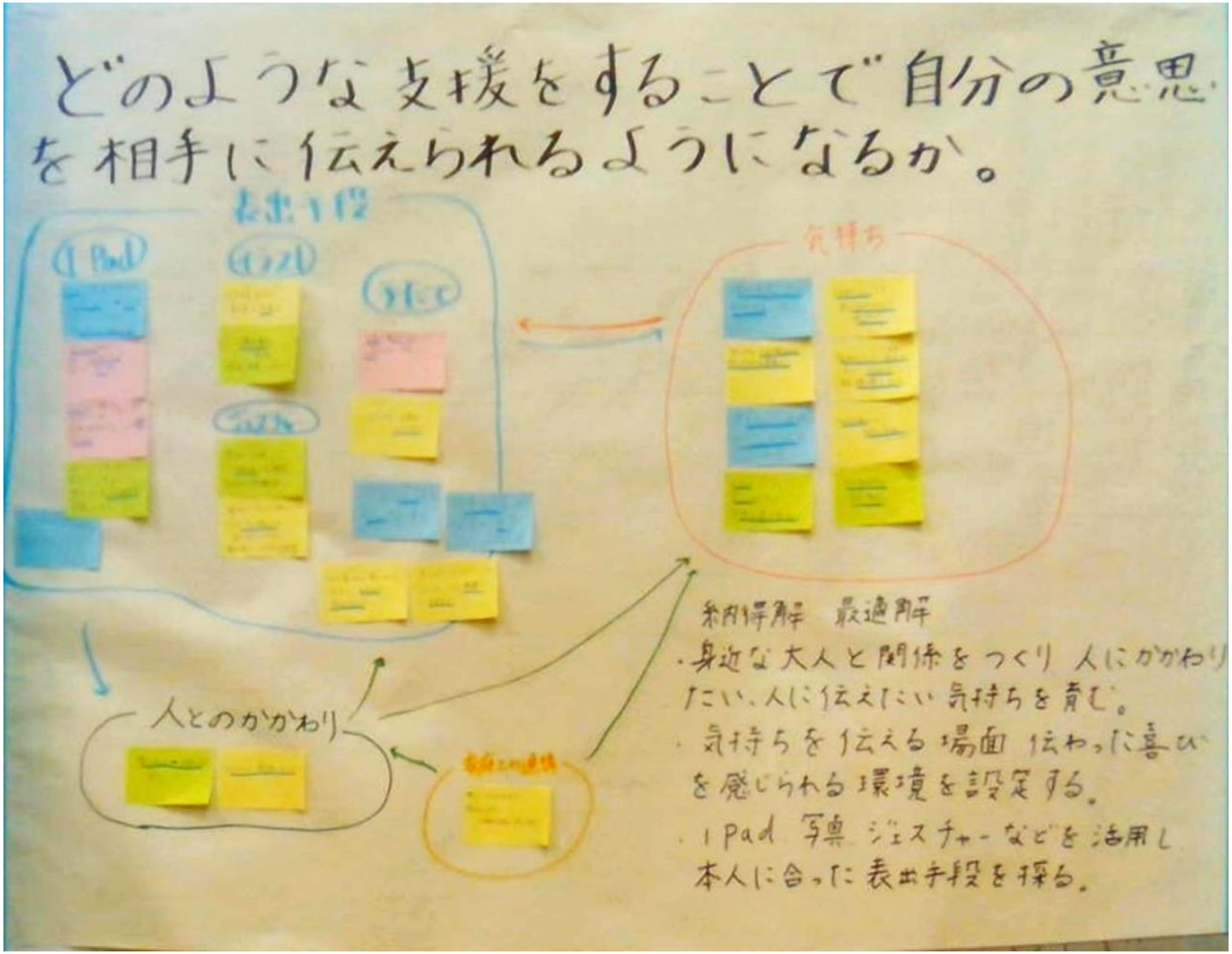
３　研究の実際

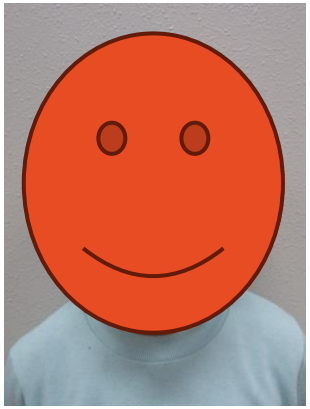
（１）事例B（国語１段階）

（２）事例G（算数３段階）

（３）事例J（国語２段階）

（１）事例B（国語１段階）


どのような支援をすることで自分の意思を相手に伝えられるようになるか。
表出手段
iPad
気持ち
人とのかかわり
納得解　最適解
・身近な大人と関係をつくり人にかかわりたい、人に伝えたい気持ちを育む。
・気持ちを伝える場面 伝わった喜びを感じられる環境を設定する。
・iPad 写真 ジェスチャーなどを活用し本人に合った表出手段を探る。



＜研究会後の改善・授業づくりについて＞

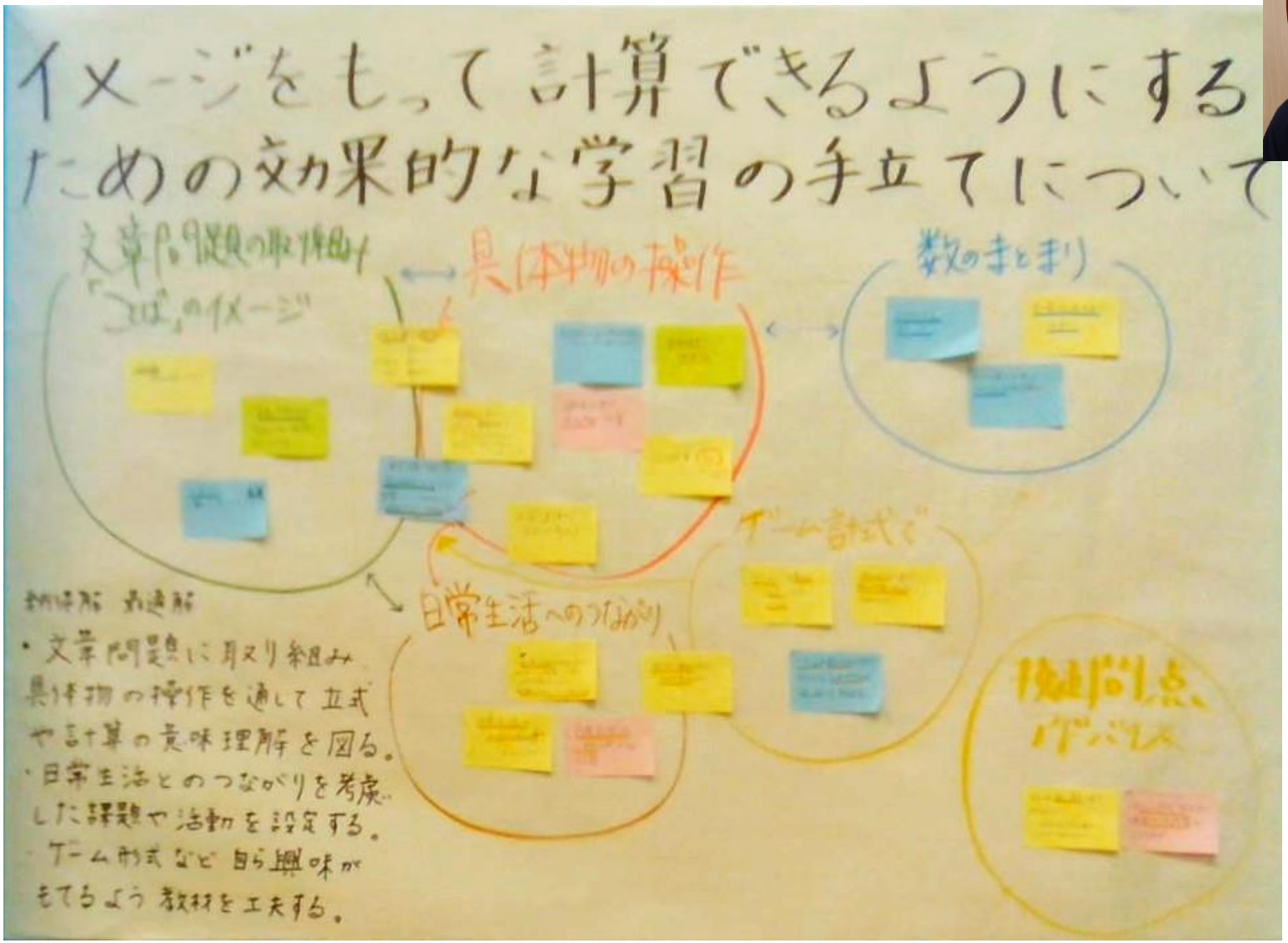
・大人に限らず、同年代の友達に自分から関わりを求めるようになってきて、楽しい時は、発声する様子も見られるようになった。友達が関わりを受け入れてくれることで、本人も「楽しい」と感じられるようになってきている様子が見られる。

・「お願いしたい」ことなどを絵カードがないときは、相手の肩を叩いてジェスチャーでお願いするよう声掛けを続けてきた。最近では、教師、友達の肩を叩いてお願いできるようになってきている。また、自分の願いが伝わったことで自信をもち、友達や教師とのやり取りに広がりが見られた。

・日直や係の仕事（呼名）はiPadを使って進めている。２、３回教師と一緒に使い、その後は近くで見守ることにした。トラブルがあったり、困ったりした時に教師に声掛けができず、泣き出す様子も見られたが、そのような時には教師を頼るよう声掛けを続けた。今では教師の支援がなくても一人で進められるようになった。

・「おなかが痛い」「眠い」等の体の調子を伝えることがまだできない。引き続き、絵カードやiPadを使った学習を進めていく予定である。

（２）事例G（算数３段階）

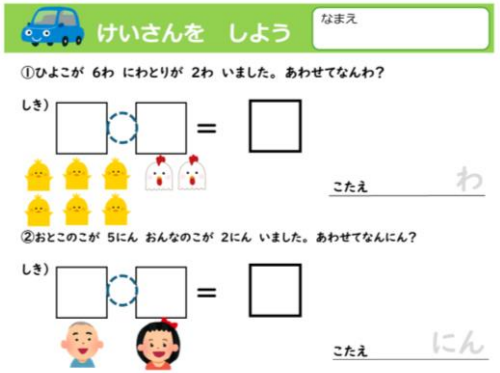

イメージをもって計算できるようにするための効果的な学習の手立てについて
文章問題の取り組み
「ことば」のイメージ
具体物の操作
数のまとまり
ゲーム形式で
日常生活へのつながり
検討点、ポイント
・文章問題に取り組み具体物の操作を通して立式や計算の意味理解を図る。
・日常生活とのつながりを考慮した課題や活動を設定する。
・ゲーム形式など自ら興味がもてるよう教材を工夫する。

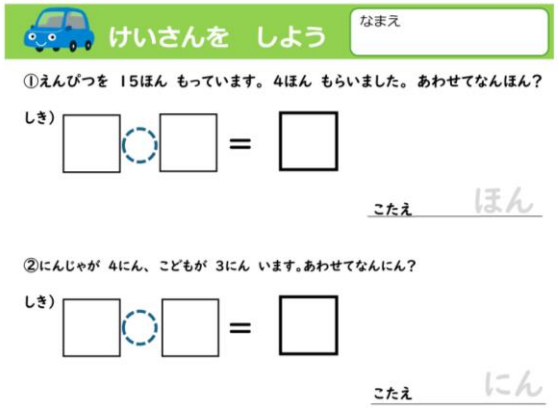
＜研究会後の改善・授業づくりについて＞

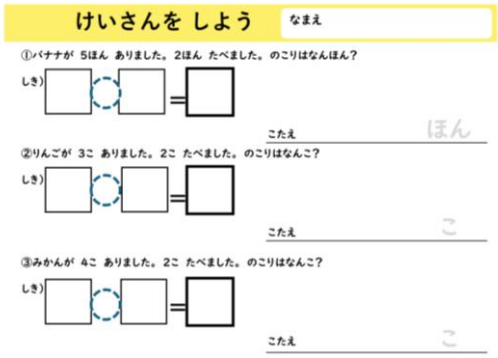
・文章問題に取り組んだ。文章を読み、□○□＝と自分で書くようにしてみた。何度か取り組んだことがあるプリントだったこともあり、できてしまった。

・答え合わせをする時は、一緒にイラストや言葉の意味（増えた、減った、合わせて）を確認した。式を解くだけの学習よりも、イメージしたり、言葉の意味を考えたりすることができた。

＜改善した教材＞







（３）事例J（国語２段階）
iPad実践報告
小学部代表

T機器を利用した授業実践事例　（令和6、7年度は、iPad研究に関連する内容とする

学校名	山梨県立ふじざくら支援学校		
授業場面	個別学習 個に応じた学習		
ICT活用に係わる学習内容	A知識及び技能	○	基本的な操作等
	B思考・判断・表現		
	C学びに向かう力、人間性等		
iPadアプリの使用目的：			
iPadアプリ「パワーポイント」		活用場面	

学部	小学部		学年	4年	
障害種	知		教科	国語	
単元名	【ひらがな】				
指導の段階	特・学習指導要領	小学部２段階	指導内容	「読む」	

児童生徒の様子

・パワーポイントを用いて、提示された文字(母音が同じ音を多く含む)の中から正しいものを選択し、身近なものや動物などの名称を構成する。
→写真を見て、不明瞭ながらそれっぽい単語を言うことができるが、文字で構成しようとすると、『とら』が『おら』になってしまったり、『すいとう』が『す○(分からない) とう』になってしまったりした。日を改めて繰り返し同じ問題に取り組むと定着している様子が見られた。

・出題された問題に出てきた名称を、５０音表でも構成する。正しく構成できたら、選んだ文字を元の位置に戻す。
→文字を見比べながら、５０音表から選び取ることができた。５０音表に戻すときには、行を読み上げながら正しい位置に戻せているかどうか確認している様子が見られた。

良かった点、改善点

①良かった点
・パワーポイントを用いると、間違えやすい文字や同じ母音の音など、選択肢を児童に合わせてカスタムできる。
・母音が同じ音の中で間違って覚えている言葉にいくつか気づくことができた。
②改善点
・本児の見え方や、性格を考慮すると、前期に取り組んだアプリ、『平仮名ボード』よりも５０音タイルを用いたほうが円滑に授業が進んだ。５０音表に音を戻す学習にも取り組めるので５０音表はアナログのほうが良い。パワーポイントについては、押すと音声が出るようにするとより良いと感じた。

実践に必要な環境・機器等

・ipad(パワーポイント)
・５０音表

実態把握①

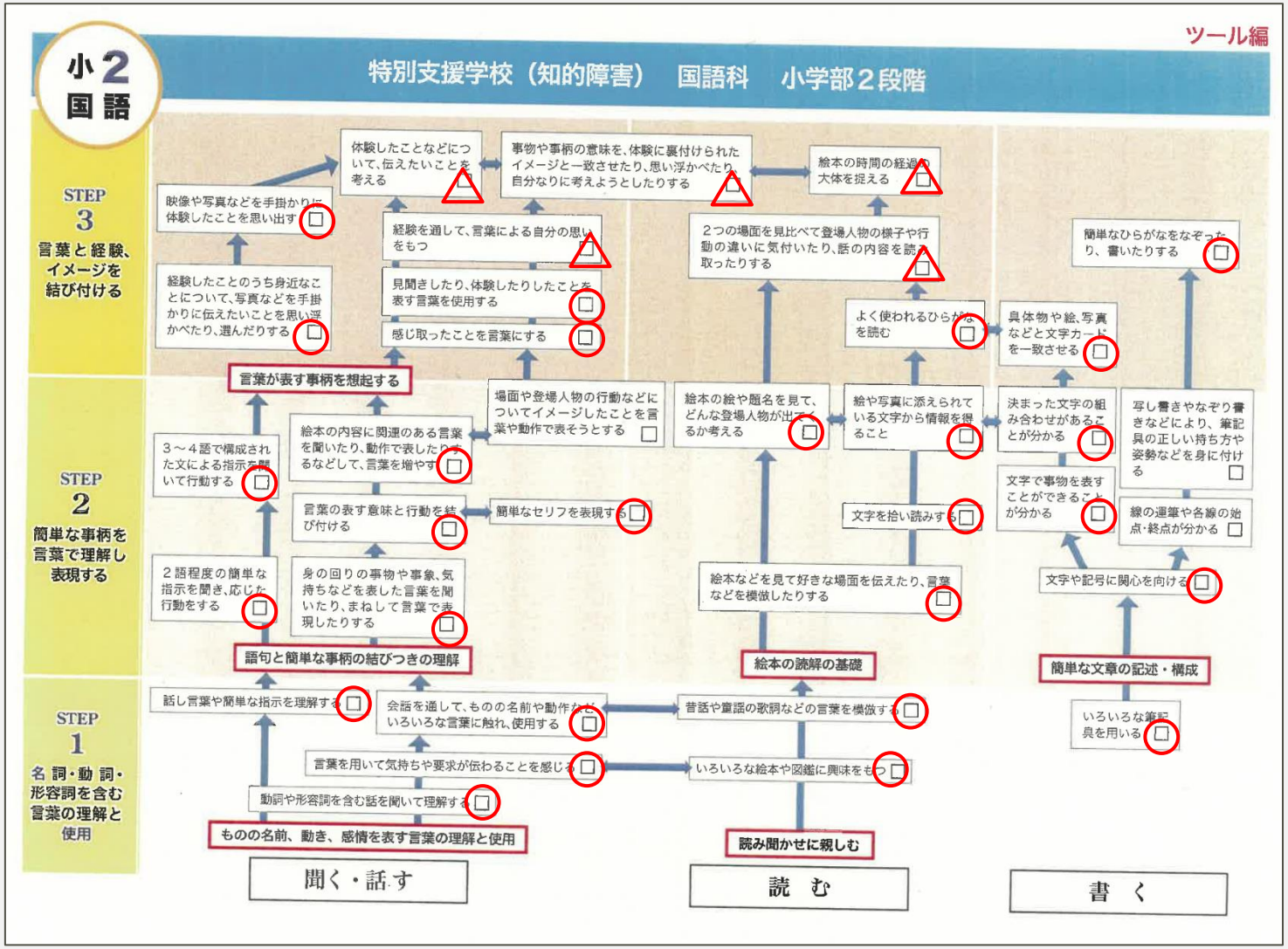
「ICT活用能力チェックシート」

				導入	ステップ１	ステップ２	ステップ３	ステップ４	ステップ５	想定される学習内容
A 知識及び技能	（１）情報技術に関する技能	①入力等基本操作	●画面を直接し注視することができる。 ●画面にタッチすることができる。 ●タッチペンを持ち、画面にタッチすることができる。 ●キーボードのキーを押すことができる。	●コンピュータの電源ができる。 ●ディスプレイとキーボードの違いが分かる。 ●画面上の特定のボタンやキーボードの特定のキーを押すことができる。 ●教師の補助があれば、コンピュータの起動・終了ができる。 ●教師の補助があれば、写真の撮影、QRコードの読み取り等ができる。	●パスワードを入力し、コンピュータの起動ができる。また終了ができる。 ●コンピュータを使って写真や動画の撮影、音声の記録、QRコードの読み取り等ができる。	●自分にあった入力方法に切り替え文字入力をすることができる。（ローマ字入力、かな入力、フリック） ●文章や画像などの切り取り・コピー・貼り付けなどの操作ができる。	●自分に合った入力方法で、文字が正しく入力できる。（目安：４０文字以上／分目） ●タッチタイピング、ショートカットキーの活用ができる。	●自分に合った入力方法で、十分な速さで正確な文字入力ができる。（目安：６０文字以上／分目） ●文書作成ソフトによる簡単なパンフレット等の作成がスムーズにできる。	●効率を考えた情報の入力ができる。（目安：８０文字以上／分目） ●文書作成ソフトによるパンフレット等の作成がスムーズにできる。	基本的な操作等 プログラミング
		②ファイル管理		●教師の補助を受けながら、電子ファイルの呼び出し、保存ができる。	●電子ファイルの呼び出し、保存ができる。 ●電子ファイルの種類がわかる。（文書、表計算、画像、PDFなど）	●電子ファイルの検索ができる。 ●電子ファイルのデータの大きさがわかる。	●フォルダを使い電子ファイルの整理・管理ができる。（移動、コピー、削除などを含む）	●電子ファイルの圧縮やパスワードによる暗号化ができる。	●クラウドの活用や権限の設定などができる。	
		③アプリケーションの利用		●教師の補助を受けながら、アプリケーションを操作することができる。	●学習支援アプリを選択・操作できる。（各校で各児童生徒にポータルから導入したアプリ）	●オフィス系アプリの選択・操作ができる。	●映像編集アプリケーションの選択・操作ができる。	●目的に応じたアプリケーションの選択・操作ができる。	●目的に応じてアプリケーションを選択・操作し、活用できる。	
		④情報検索		●教師の補助を受けながら、インターネットを利用して検索できる。 ●検索したい情報がありそれぞれの方法で伝えることができる。	●インターネットの情報を見たり、キーワードを入力して検索ができる。	●知りたい情報（キーワード）を組み合わせて検索できる。	●AND、ORなどを用いた検索ができる。	●目的に応じて適切に検索できる。	●目的に応じて適切に素早く検索できる。	
		⑤記号の組み合わせの理解		●事象について、何らかの説明ができる。	●事象について、「最初に～、次に～、最後に～」などの言葉を用いて、順に説明することができる。	●手順を図示し（フローチャートで示し）、簡単なプログラムが作成できる。	●単純な繰り返し、条件分岐などを含んだプログラムが作成できる。	●意図した処理を行うためのプログラムが作成できる。	●問題発見・解決のための安全・適切なプログラムの制作、動作確認ができる。	
	（２）情報機器及び情報の適切な活用決定・方法決定に思考する	①情報収集		●教師の補助を得ながら、情報を収集することができる。	●教科書や図書室などの本、インタビューなどを利用して、情報を集めることができる。 ●相手の話をよく聞き、質問したりメモしたりする。	●簡単なアンケートや資料等を調べることにより情報の収集することができる。	●WEBによるアンケート調査を実施し情報をまとめることができる。	●実験・観察等による情報の収集や検証の方法を知り、実践できる。	●分析の目的を踏まえて統計的な調査を設計し、情報を収集できる。	問題解決・探究における情報活用
		②整理・分析・表現		●簡単な絵や図の数を数えることができる。 ●同じ仲間、違う仲間などに分類することができる。	●簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。	●表やグラフなどから、整理した情報の特徴や傾向、変化等を捉えることができる。	●目的に応じた適切な表やグラフ、文章による説明などを用いて情報の整理ができる。	●表やグラフを用いて比較・分類・関連付けなどができる。	●統計的な手法を用いた情報の整理・分析ができる。また、情報を重要度等によって階層化して整理する方法を知っている。	
		③発信		●自分なりの発信方法があり、主体的に発信することができる。	●写真や動画、言葉、身体表現など、相手に伝わるよう工夫し、プレゼンテーションできる。	●プレゼンテーションアプリを利用して、目的に合わせたスライドを作成し、発信できる。	●相手とのやりとりや資料の活用などを含む効果的なプレゼンテーション方法で発信できる。	●目的や意図に応じて、新聞やリーフレット、WEBページ、スライドなどにまとめて発信できる。	●Webページ、SNS、ライブ配信等の発信・交流についての効果的な方法を用いて発信できる。	
		④情報活用の計画・評価・改善		●教師と一緒に振り返りをすることができる。	●情報の活用（学び・授業）を振り返り、良かったこと、改善したいことを確認できる。	●振り返りを生かし、改善策を考え実践することができる。	●目的を意識して情報活用の見通しを立て取り組むことができる。	●問題解決のための情報及び情報技術の活用計画を立てる手順が分かる。	●情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善する手段が分かる。	
	（３）情報モラル・情報セキュリティに関する理解	①対人（個人情報）		●人を傷手に撮影して はいけないことを知っている。 ●人の作ったものを大切にすることを知っている。	●著作物のコピーや無断使用等ができないことを知っており、責任を持って情報を扱うことができる。 ●人の情報（電話番号や住所、写真、アカウントなど）や作ったものを使うときには、その人の許可が必要であることを知っている。	●SNS等に人の写真や文章等をアップロードするときには、肖像権や著作権を尊重し、相手の承諾を得るようにしている。	●情報に関する個人の権利とその重要性を理解できる。	●情報に関する個人の権利とその重要性、法規・制度、マナーの意義について理解できる。		情報モラル 情報セキュリティ
		②方法		●インターネットには よくないページもあることを知っている。 ●コンピュータを使用して困ったことがあった場合に相談することができる。	●悪意のある情報や、不適切・不正なサイトを見つけたときは、大人に相談できる。	●IDやパスワードが大切な物であることを理解し、安全に管理することができる。	●なりすましやウイルス等の危険性を理解することができる。 ●オンラインコミュニティの知識があり理解している。	●情報セキュリティを理解し、情報を守るための方法を知っている。	●情報セキュリティ・サイバーセキュリティについて理解し適切な対応ができる。	
		③健康・生活		●コンピュータを利用すると目が疲れたりすることなどを知っている。	●コンピュータなどのメディアの利用にはルールがあることを理解している。	●コンピュータなどのメディアを使いすぎることが視力、睡眠などの健康に影響があることを知っている。	●発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響について理解している。（誹謗、デジタルタトゥーなど）	●視力や睡眠などの健康面に配慮した情報メディアとの関わり方について理解している。	●健康面に配慮した日常的な情報メディアの利用方法・行動計画・調整について理解している。	
B 思考・判断・表現	（１）情報を活用して探究する力における	①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力	●何らかの情報に対して反応し、自分なりに表現する。 ●入力した文や文書、画像などを注目し反応する。 ●受け手を意識して発信しようとしている。	●話を聞いたり、本を見たりして集めた情報に感想や意見をいう。 ●集えたものを同じ種類に分けることができる。 ●調べた情報をもとに、考えを変えたり、変更したりする。	●簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報をまとめることができる。	●比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、情報を整理・分析することができる。	●調査や資料等から情報を収集し、観点を決め簡単な表やグラフ等を活用し整理・分析することができる。	●目的に応じた表やグラフ、比較・分類・関連付けなどを適切に選択・活用し、情報を整理することができる。	●目的や状況に応じて統計的に整理したり、比較・分類・関連付けなどを組み合わせて活用し整理することができる。	探究における情報活用 プログラミング 問題解決・探究 情報モラル・情報セキュリティ
		②新たな意味や価値を創造する力		●何の情報か大まかに捉える。 ●情報をもとに自分の考えを発表できる。	●いくつかの情報を整理し、自分の言葉でまとめることができる。	●いくつかの情報を整理し、全体的な特徴や差を捉えることができる。	●整理された情報をもとに、新たな考えを発見したり、意見を述べたりすることができる。	●目的に応じて、情報技術を活用し、情報の傾向と変化を捉え、課題に対する多種な解決策を見つけることができる。	●目的に応じ、情報技術を適切に活用し、モデル化やシミュレーション等を行いながら、情報の傾向と変化を捉え、課題に対する多種な解決策を見つけることができる。	
		③受け手の状況を踏まえて発信する力		●伝える相手を明確にして発信する。 ●注目してほしいことに対して工夫ができる。	●相手に対して、わかりやすく表現する。（声の大きさ、間の取り方、話す速さ、話す順番など）	●自分の考えが伝わるように、資料を活用するなど表現を工夫することができる。	●目的や意図が伝わるよう、種々な表現手段を活用し、効果的に表現する。	●目的や意図に応じて、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信・創造することができる。	●目的や意図を受け、適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、プレゼンテーション、WEBページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信・創造することができる。	
		④自らの情報活用を評価・改善する力等		●良かったことを繰り返そうとしたり、思い通りにいかなかったこと仕方法を変えたりしようとする。	●情報活用を振り返ることで、良い点、課題点に気づくことができる。	●情報活用を振り返り、より良い活用を目指し、手順などについて改善できる。	●情報活用を振り返り、より良い活用を目指し、手順などについて改善できる。	●どのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかを論理的に考えることができる。	●どのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかをオンラインコミュニティ等を活用しながら論理的・協働的に考えることができる。	
C 学びに向かう力・人間性等	（１）探究・問題解決・発見	①多角的に情報を検討しようとする態度	●自分で調べようとしたり、視点を向けたり、発声したりして、意欲的に関わろうとしている。	●教師の補助を受けながら、知りたいことを自分で調べようとする。 ●課題解決に必要な情報を見つけようとする。	●インタビューやアンケートなどを活用し、関係する情報を見つけようとする。 ●調べた情報に対していろいろな人の考えを聞こうとする。	●得られた情報同士を比較したり、他の意見を聞いたりしながら話し合おうとする。	●情報同士のつながりを見つけようとする。 ●新たな視点を受け入れて検討しようとする。	●情報を構造的に理解しようとする。 ●物事や情報を批判的に考えようとする。	●事象を、情報とその結びつきの視点から捉え、問題解決に役立てようとする。 ●物事や情報を批判的に考察し、新たな価値を見出そうとする。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
	情報を活用するための	②試行錯誤し、計画や改善をしようとする態度		●うまくいかないときに繰り返し取り組もうとする。 ●やり方を変えようとする。	●情報の活用を振り返り、良さを見つけようとする。	●目的に応じて情報活用の見通し（計画）を立てようとする。	●情報活用を振り返り、改善点を見出して次に生かそうとする。	●複数の視点を想定して、計画しようとする。 ●情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする。	●条件を踏まえて情報活用の計画を立てようとする。 ●情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする。	
	情報モラル・情報セキュリティなどについての	③責任をもって適切に情報を扱おうとする態度		●自分のことをむやみに人に教えないようにしている。 ●人のことを傷手に話したりしないようにしている。 ●人の作ったものを大切にしようとしている。	●人の作った物を大切にし、他人に伝えてはいけない情報を守ろうとする。 ●コンピュータなどを利用するときの決められたルールを守り活用しようとする。	●個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、パスワードを他の人にわからないようなものにしたりしている。	●情報の発信や情報をやりとりする場合に（SNSなど）、ルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする。	●情報に関する自分や人の権利があることを踏まえ、尊重しようとする。 ●ネットワーク上のルールやマナーを理解し、行動しようとする。	●社会は互いにルールや法律を守ることによって成り立っていることを踏まえ、行動しようとする。 ●情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性を理解し行動しようとする。	情報モラル 情報セキュリティ
		④情報社会に参画しようとする態度		●学習では、コンピュータやICT機器を使おうとしている。 ●様々な情報に触れようと行動している。	●情報を調べて分析し、まとめたり発表したりする学習では、必要に応じて自分からコンピュータなどを活用するようにしている。	●情報ネットワークを協力して使おうとする。	●情報や情報技術をよりよい生活や社会づくりに活かそうとする。	●情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする。	●情報や情報技術をよりよい生活や持続可能な社会の構造に活かそうとする。	

ハーモニー

実態把握②

「ラーニング・マップ」



実態把握③

「日常生活における課題」

・動作がゆっくり。やる気があると急げることもあるが、周囲の様子を見たり、声掛けを受けたりしても急げないこともある。先に始めると「なんで！」と怒る。

・発音が明瞭でなく、聞き取りにくい。
伝わらないと、不快感を示し、早口になって更に聞き取りにくくなる。

・自分の思いを曲げられないことがある。

授業計画

【教科名】国語

【単元名】読むこと「平仮名」

【学習指導要領上の段階】小学部２段階

【単元の目標】

知	教師の口形を模倣しながら、５０音を丁寧に読むことができる。
思	母音が同じ音の中から必要な音を選択して簡単な単語を構成することができる。
学	日常生活の中でよく見る単語に気付き、積極的に読むことができる。

【本時の内容】

・イラストや写真を見て、平仮名をタップして単語を構成する。

【本時の目標】

知	教師の口形を模倣し、一音ずつ区切りながら単語を読むことができる。
思	提示された平仮名から必要な音を選択して身近なものの単語を構成する。
学	日常生活の中でよく見るものの名前に気付き、単語を構成することができる。

授業実践・学習の様子

・学習の様子について

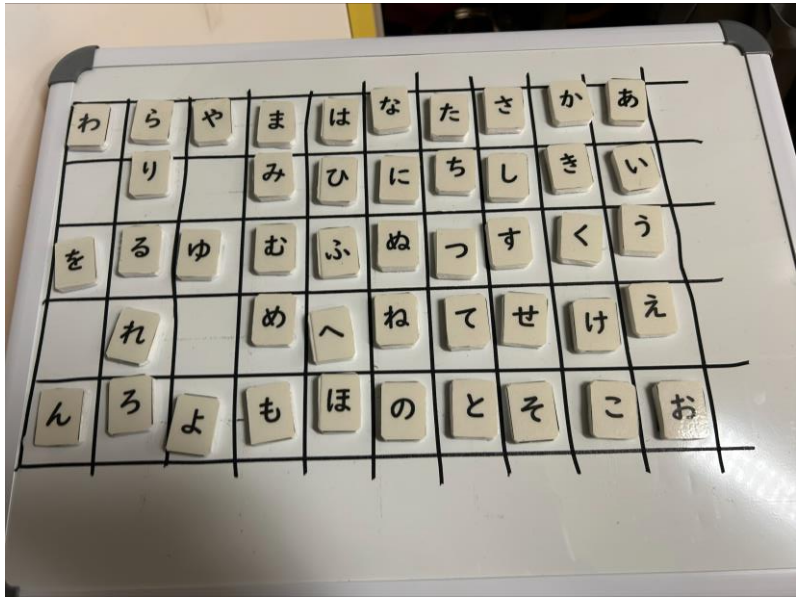
＊教材

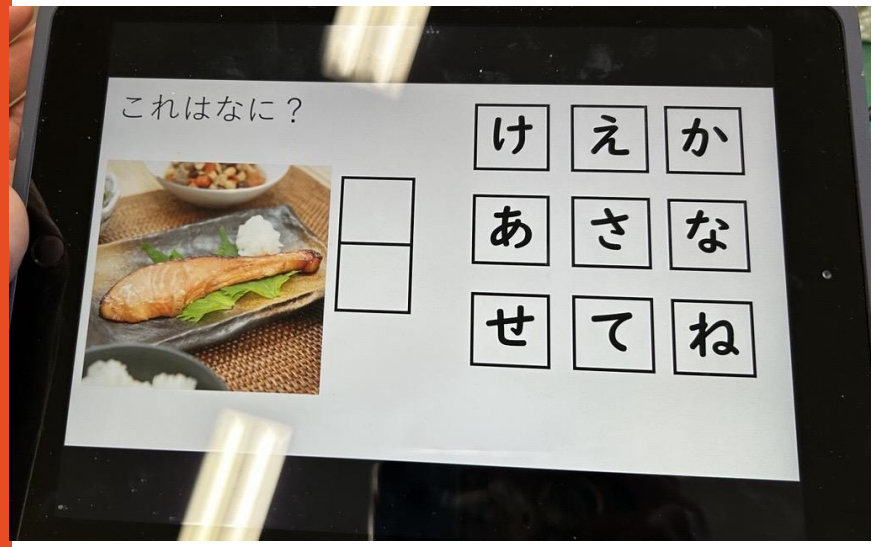
・５０音タイル
・イラストカード
・ipad(パワーポイント、平仮名ボード)

＊手だて

・パワーポイントを用いて、提示された文字(母音が同じ音を多く含む)の中から正しいものを選択し、身近なものや動物などの名称を構成する。
・出題された名称を、５０音タイルでも構成する。
正しく構成できたら、選んだ文字を元の位置に戻す。

基本の教材・教具





iPadアプリ

平仮名ボード

パワーポイント

これはなに？
ね
え
ん
ぎ
は
ま

考察

①よかった点

・平仮名ボードのアプリは、押すと音声が出るので正誤に気付きやすい。

・パワーポイントを用いると、間違えやすい文字や同じ母音の音など、選択肢を児童に合わせてカスタムできる。

・母音が同じ音の中で間違って覚えている言葉にいくつか気付くことができた。

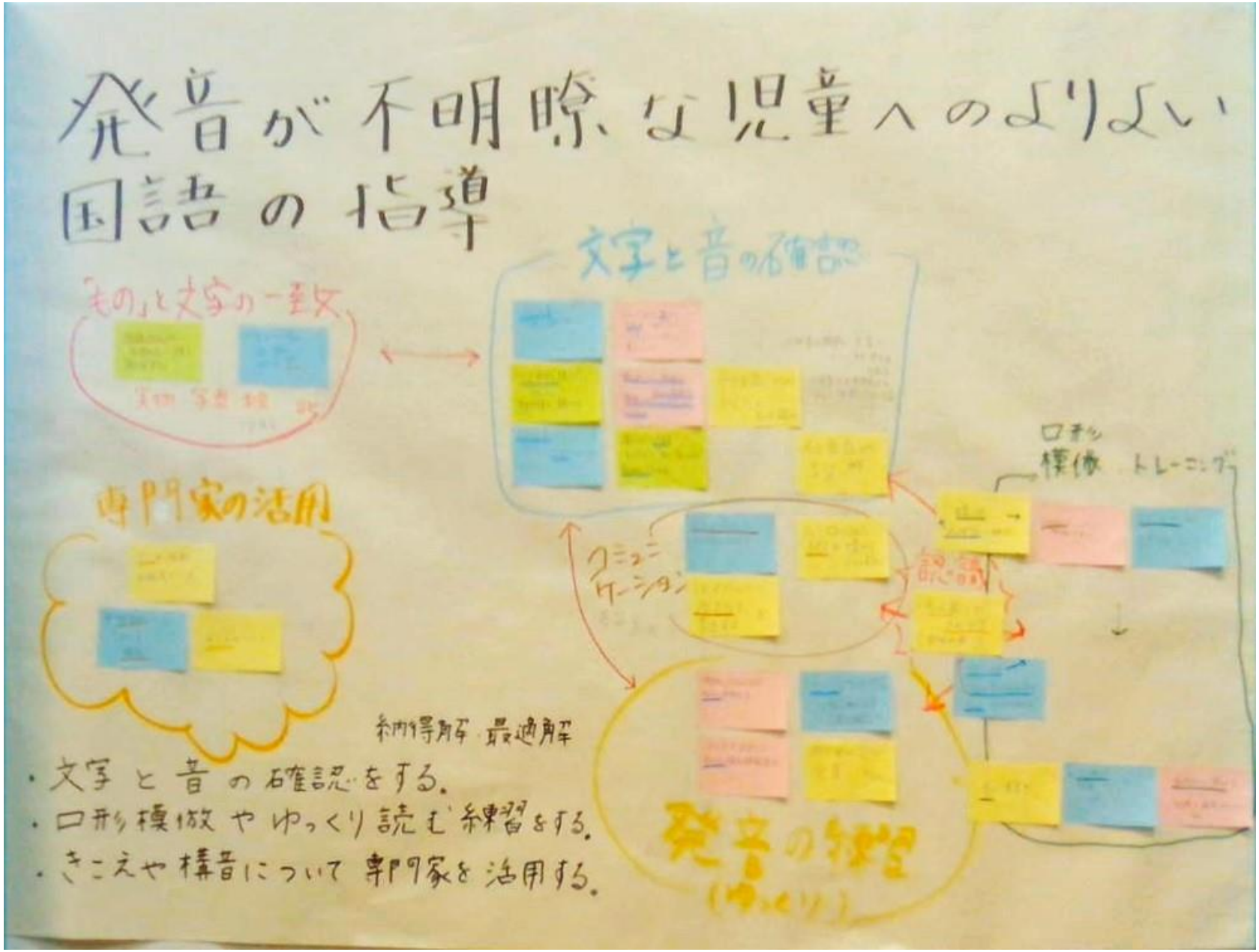
②改善点

・本児の見え方や、性格を考慮すると、平仮名ボードよりも５０音タイルを用いたほうが円滑に授業が進んだ。５０音表にタイルを戻す学習にも取り組めるので５０音表はアナログのほうがよい。パワーポイントについては、押すと音声が出るようにするとよりよいと感じた。

③討議の柱（聞いてみたいこと）

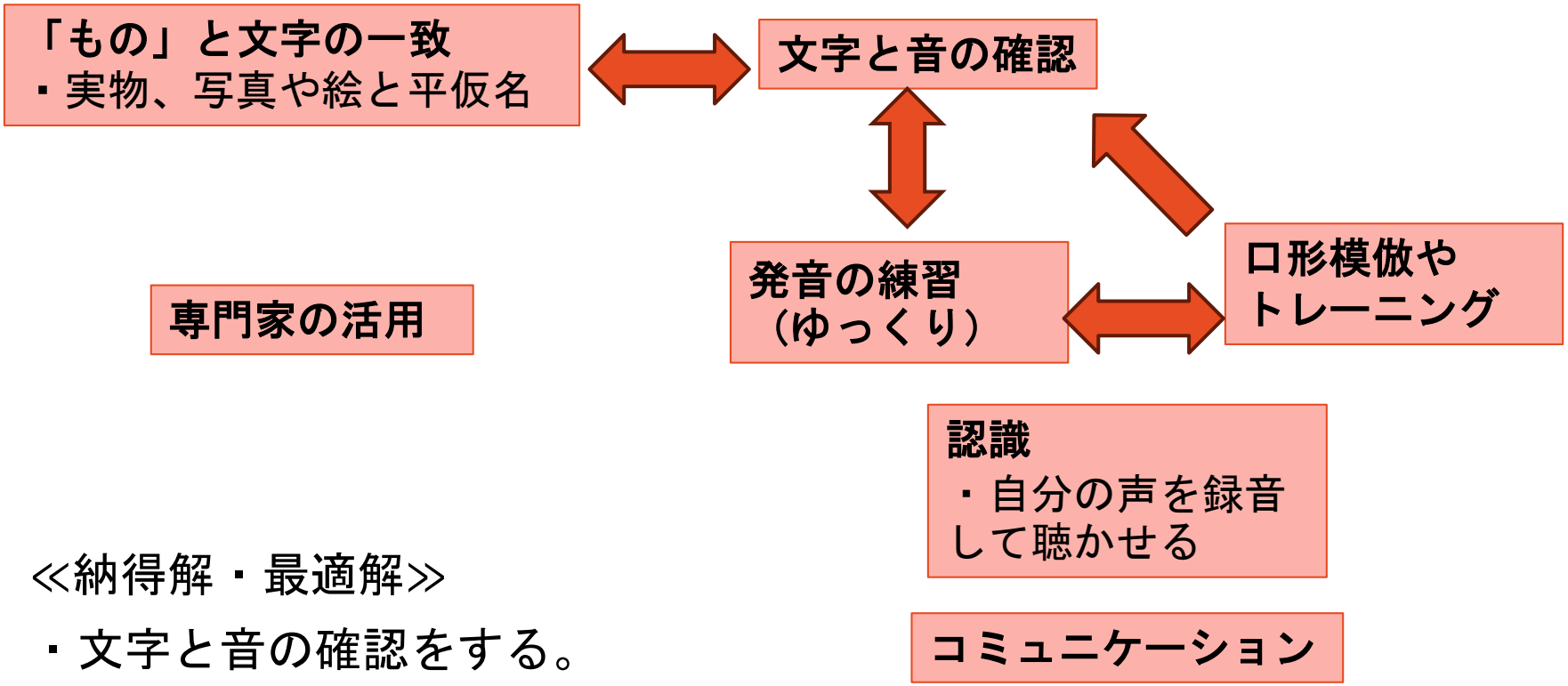
・発音に不明瞭さのある児童にとってよりよい国語の指導方法

＜参考＞


発音が不明瞭な児童へのよりよい
国語の指導
「もの」と文字の一致
文字と音の確認
専門家の活用
口形
模倣
トレーニング
コミュニケーション
認識
発音の練習
（ゆっくり）
納得解 最適解
・文字と音の確認をする。
・口形模倣やゆっくり読む練習をする。
・きこえや構音について専門家を活用する。

＜ブレーンストーミング法によるブロックでの考察＞

＜討議の柱＞
・発音に不明瞭さのある児童にとってよりよい国語の指導方法



≪納得解・最適解≫

・文字と音の確認をする。

・口形模倣やゆっくり読む練習をする。

・聞こえや構音について専門家に相談する。

＜研究会後の改善・授業づくりについて＞

・日常生活の中で、本児には急いでもらうことが多く、教師側も時間をかけて確認することをせずに汲み取っていることが多いと気付かされた。全ての音を確認することは難しいが、よく使う言葉や挨拶などは意識的に一音ずつ確認するようにしていきたい。

・『まめ』『あめ』『かめ』の三つの言葉を取り上げて取り組んでみたところ、今回の授業では、パワーポイントで正しく正解することができた。学習を始めた当初は間違えることもあったので、繰り返し取り組んだ内容はしっかりと身に付いている様子がうかがえる。

・イラストを提示して「まめ/あめ/かめはどれ？」の質問にも正しく答えることができた。研究以前は行っていない学習のため、上記の繰り返しの学習で理解が深まってできるようになったのかは不明なので、新しい言葉の学習でも同様の形で尋ねて確認する必要がある。

・本児の「まめ/かめ/あめ」の音声をipadで録音して再生し、正しいイラストを選択する学習に取り組んだところ、正答率は低かった。自分の声を録音で確認することで、自分自身で他者からの聞き取りにくさに気付くことができ、再度ゆっくりと一文字ずつ読み上げるように録音し直したところ正答率が上がった。他者からの聞き取りやすさを意識して発声することができたと思われるため、今後も取り組んでいきたい。

・録音の記録を残すことで、本児の発声の経過を確認することができてよいと感じた。

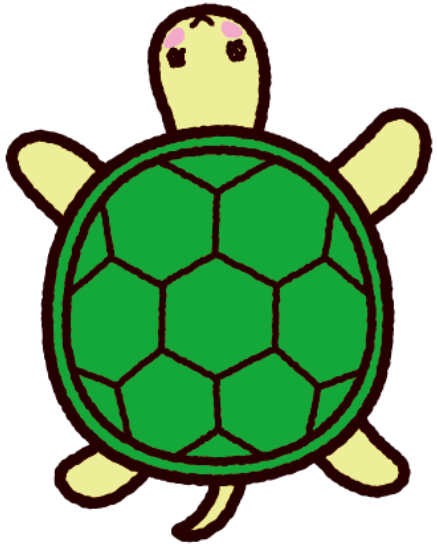
あめ①

あめ②

あめ

かめ①

かめ②



かめ

まめ①

まめ②

まめ

＜最終の学部研究会より＞

○自作教材について

・児童の実態、障害特性から課題を設定し、教材を手づくりしていてよい。

・実態に応じた手づくりのパワーポイント教材が素晴らしかった。

・PPの教材は操作がしやすく、児童の到達度の確認としてより正確に素早くフィードバックが返ってくるため、有効である。

・デジタルとアナログをバランスよく使い、補い合って取り組めているよさがあった。

・作成した教材を共有できるとよい。

・５０音の識別は正しくできているのか再確認できるとよい。

○iPadの録音機能活用について

・iPadの録音機能など、アプリだけにとらわれない使い方がよい。

・録音の記録を付けることで成長の足跡を残すことができ、よいアイディアである。

・録音することで発音の仕方を本児に気付かせることができ、よい方法、手立てである。

・発音が不明瞭な子どもに自分の声を聴かせるのは有効と分かった。

・録音した発声を聞くと、１回目と２回目ではだいぶ違ったので、繰り返し取り組むことで、発音が明瞭になりそうだ。

○発音へのアプローチ

・苦手な音、発音が難しい音を確認し、口の開き方、舌の使い方を練習できるとよい。

・口形模倣だけでなく、自立活動などの時間に、口唇のやわらかさや舌の動かし方などについて、鏡を使った遊びを取り入れながら練習できるとよい。

・発音については、口唇の使い方や筋肉などの動きも併せて支援、指導していくとよい。

○その他

・将来を見通して言葉の力を伸ばしていくことの大切さを感じた。

・いろいろなアプローチを実践していた。

４ 成果と課題

〇従来の教材とiPadの教材の効果的な活用について考えることができた。

・事例Bでは、表出手段としてiPad、絵カード、身振りなどから、状況や本人に応じた表出手段を探ることが納得解・最適解として出された。日直の司会にはiPadを活用し、スムーズに進行できるようになった。また、お願いする時は、相手の肩を叩くよう促しを続けたところ、最近では、教師、友達の肩を叩いてお願いできるようになってきている。

・事例Gでは、繰り上がりのない二桁の足し算において、iPadやプリントでの実践報告があった。iPadの操作自体が楽しくなってしまう課題も出され、様々な教材を操作して理解を図る重要性も指摘された。

・事例Jでは、平仮名を読む学習としてパワーポイントで作成した単語構成の教材にiPadで取り組みながら、平仮名５０音表の確認を実際の教材を使って行う実践報告があった。文字を操作して枠から出し入れすることで、より５０音の位置の理解につなげることができるのではないかと考える。平仮名の理解も深まり、将来的には、コミュニケーションを補うツールになる可能性もある。

・算数の指導において、１０以上の数を取り扱う際など、iPadの方が取り組みやすいという意見が出た。目と手の使い方や短期記憶などに課題がある場合など、従来の教材の難しさを補う面もある。

・重さや長さ、触覚の弁別、形の捉えなどは、触覚を使い、操作をして確かめる教材を活用していく必要がある。

〇情報活用能力の育成や言語能力の育成につなげることができた。

・iPadの活用を通して、基本的な操作や問題解決における情報活用を促し、情報活用能力の育成につなげることができた。一方、情報モラルや情報セキュリティの項目は、取り扱っている事例は少なかったが、実態によっては「ルールやマナー」を意識付け「約束やきまり」をつくってみるのもよいと考える。

・iPadに留まらず、図書館の活用など情報活用能力の育成について、今後も考えていけるとよい。

・算数の事例において、イメージをもって計算するために文章題の必要性が挙げられ、言語能力の育成は、教科等横断的な視点が重要であることが再確認された。

〇ブレーンストーミング法を用いることで多面的・多角的な視点から討議の柱について考えることができた。

・事例検討を重ねることで、関連をもたせながら、応用的に考察し、段階に応じた支援や指導を確認できた。

・事例児童について、ブロックで共通理解を図る機会となり、事例を通して学んだことを自身の指導に生かすことができた。

・討議の柱で出された支援方法を集団授業や日常の関わりに生かす場面が見られた。

・ブレーンストーミング法以外の事例についても、もう少し意見交換できるとさらによかった。

・ブレーンストーミング法を用いてまとめていくことが難しく、進め方を工夫する必要があった。今後もグループとして分析力を高め、まとめる力を付けていく必要がある。